鹿児島県立博物館研究報告（第８号）：17～22，1989

鹿児島市内におけるホウライシダの分布資料 (1)

脇　　忠　雄*

Distribution of *Adiantum capillus-veneris* L. Kagoshima-city.

Tadao Waki

ホウライシダ *Adiantum capillus-veneris L.* はワラビ科に属するシダ植物で，台湾，中国，日本，フィリピン，ヒマラヤ，オーストラリア，南洋諸島，ヨーロッパ，アフリカ等，広く分布している。この種は，水気の多い岩の上や人家の石垣のすき間などによく生えており，県立博物館付近ではよく見られる。県内の分布は，県本土では，鹿児島湾を中心とした沿岸地に産し，東シナ海側の地域ではみられない。また，離島では，屋久島，奄美大島に見られない等分布上理解に苦しむ点がある。これは単なる調査不足によるものなのか，何かほかの要因によるものか調査する必要がある。そこで，まず鹿児島市内の分布状態を調べてみたので，その結果を報告し，今後の問題点を検討したい。

1．これまでの記録

この種の鹿児島市内の記録は，内藤喬，梶原重盛の鹿児島県自生植物目録（1934）に鹿児島市内・外と記されており，1934年以前から自生していたものと考えられる。鹿児島市城山公園調査報告書（1974）によると城山では，1931年，1954年，1974年の３回の調査で確認されている。倉田悟，中池敏之の日本のシダ植物図鑑Ⅰ（1974）によると鹿児島市城山(山本明，1971)鹿児島市田上町広木（竹迫賢，1977）の記録がある。

県立博物館の標本による記録では，鹿児島市城山(1949.9，日置)，鹿児島市城山（1952.10，内藤），鹿児島市（1959.4，山中)，鹿児島市（1982．6，大工園），鹿児島市（1982．8，大工園），鹿児島市稲荷川（1986．2，松永）等がある。

2．調査記録

○１月10日　原良団地２丁目―原良団地１丁目―原良団地３丁目―武岡団地２丁目

この団地は，1966．12．以降に造成された団地で標

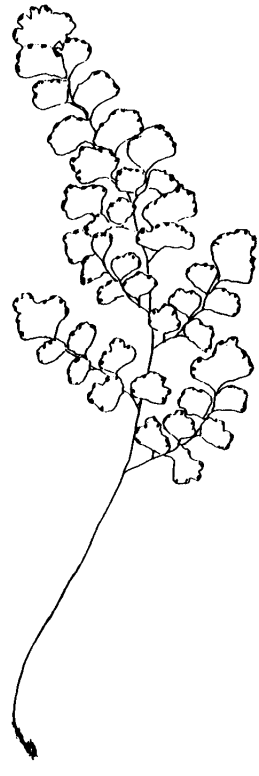


図１．ホウライシダの葉の裏面

*鹿児島市城山町１番１号　　鹿児島県立博物館

高80mの高台にある比較的新しい団地である。この付近の石垣，ブロックべいには，イノモトソウ，オニタビラコ等は見られたが，ホウライシダについては，確認できなかった。

○１月30日　城山町―長田町―柳町―春日町―清水町―滝ノ神水源地

○２月４日　城山町―長田町―柳町―春日神社―清水町―滝ノ神水源地

このコースでは，湿気の度合い，方角，高さ，明るさとの関係を中心にあたった。

（博物館近くの人家の石垣）

図にでもわかるように，道路面から40～50cm位のところまでは，ホウライシダが群生しており，50cm以上になるとオニタビラコ，カタバミが石垣のすき間を占め，ホウライシダはわずかに生えている。この石垣は南西に面しており，比較的よく日の当たるところである。〈図２〉

（美術館前道路の側溝内）

水面から20～30cm，入口から30～40cmの所に群生しており，入口手前の方は，オニタビラコ，チチコグサモドキ，セリ等の植物が生えていた。入口は西側に面し，直射日光はほとんど当たらないところであり，湿気は十分にあるところである。〈図３〉

（黎明館前のお堀）

道路面から地下20cm位の所にコケ類，オニタビラコ，イノモトソウが見られるが，その下50～60cmの所は，イノモトソウ，ゼニゴケ類，ホウライシダで占められている。〈図４〉

（柳町人家の車庫内）

この車庫は，幅２m，奥行３m位で片方は石垣になっている。車庫の中央部分にある石垣では，地面から50cm位の所までホウライシダが生えていたが，奥の方は，地面付近にしか生えていなかった。〈図５〉

そのほか，このコースでは，川の石垣，人家の石垣にも多く見られる。全体的には，日当たりの悪い，湿った場所は，競争種としてコケ類以外はあまり見られないが日当たりの良い，比較的乾燥している所では，カタバミ，イノモトソウ，オニタビラコ等と

〈図２．人家の石垣に生えているホウライシダ〉

〈図３．側溝内に生えているホウライシダ〉

〈図４．暗きょ近くに生えているホウライシダ〉

〈図５．車庫内に生えているホウライシダ〉

競争している。人家の石垣では,除草の危険性があり,せまい石垣のすき間に根茎をのばして生えている。

○ 3月4日　平之町

○ 3月6日　照国神社―城山登山道―城山駐車場―
　　城山展望台―城山遊歩道

このコースは，市街地と自然林(城山)の接点部分にあり，ホウライシダがどの程度森林に侵入しているかについて調査にあたった。市街地からいきなり外縁部のシラスのがけになるが，ホウライシダは，照国神社の石垣，平之町の人家の石垣付近のみに見られた。林間の城山登山道に入ると，イノモトソウ，リュウキュウイノモトソウは見られたが，ホウライシダは確認できなかった。

〈図6．タツツケバナとホウライシダ〉

○12月24日　永吉町―城西1丁目―城西2丁目―西田町―常盤町

○ 1月5日 (1989)　草牟田1丁目―草牟田2丁目―伊敷町―河頭―小山田町塚田

この二つのコースは，甲突川沿いの旧市街地にあたり，人家の石垣等も古く，ホウライシダの生育に適していると思われる。そこで，どの地点まで侵入しているかを中心に調査した。

(永吉町町玉江橋近く)

道路面から50cm位の高さの人家のブロックべいのすき間に生えていた。この場所は日当たりが悪く，湿気があり，コケ類が多く生えていた。

(常盤町水上坂)

この付近は，人家の近くまでシラスの崖が迫まり，山の谷あいにある集落である。道路面から20cm位の高さの石垣にホウライシダが生えていた。付近には，オオアレチノギク，ムラサキカタバミ，イノモトソウなどが生えていた。

(草牟田町草牟田墓地入口付近)

墓地のブロックべいに数か所ホウライシダが見られた。オニタビラコ，イノモトソウなどが多く生えていた。この付近は，人家と墓地の境界で日当たりが悪く，湿気のある所である。

(伊敷町肥田橋付近)

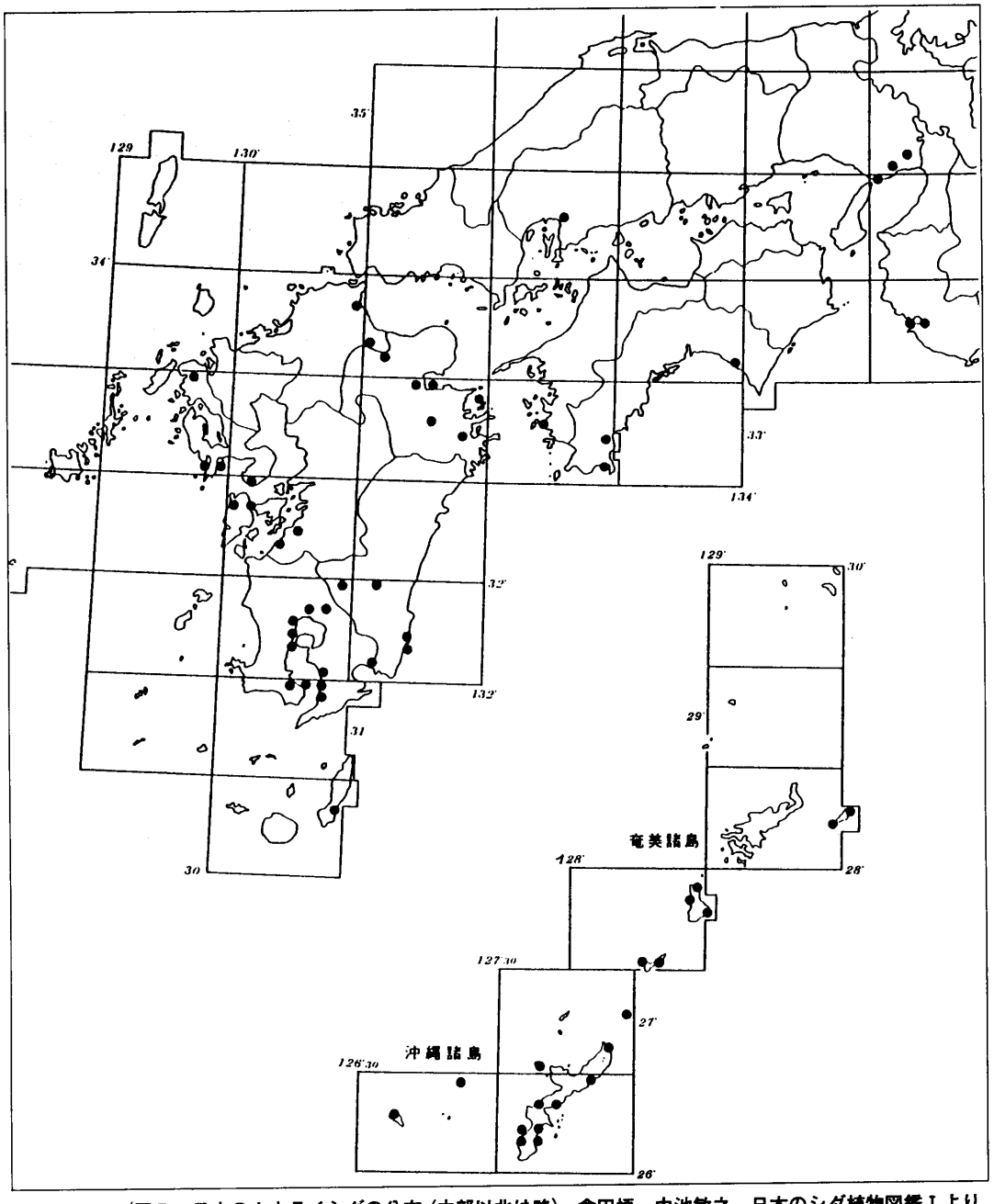
道路に面した人家のブロックべいのすき間にわずかに生えていた。日当たりの良い所で，まわりにはイノモトソウがわずかに見られた。

甲突川に沿ったこのコースの調査は，まだ不十分な面があり，良い成果は得られなかったが，河頭付近までは，侵入していると思われる。西田町，薬師町でも見られたという情報もあり，今後調査する必要がある。田上川に沿って数か所調査したが，この付近では確認できなかった。

3．総括及び考察

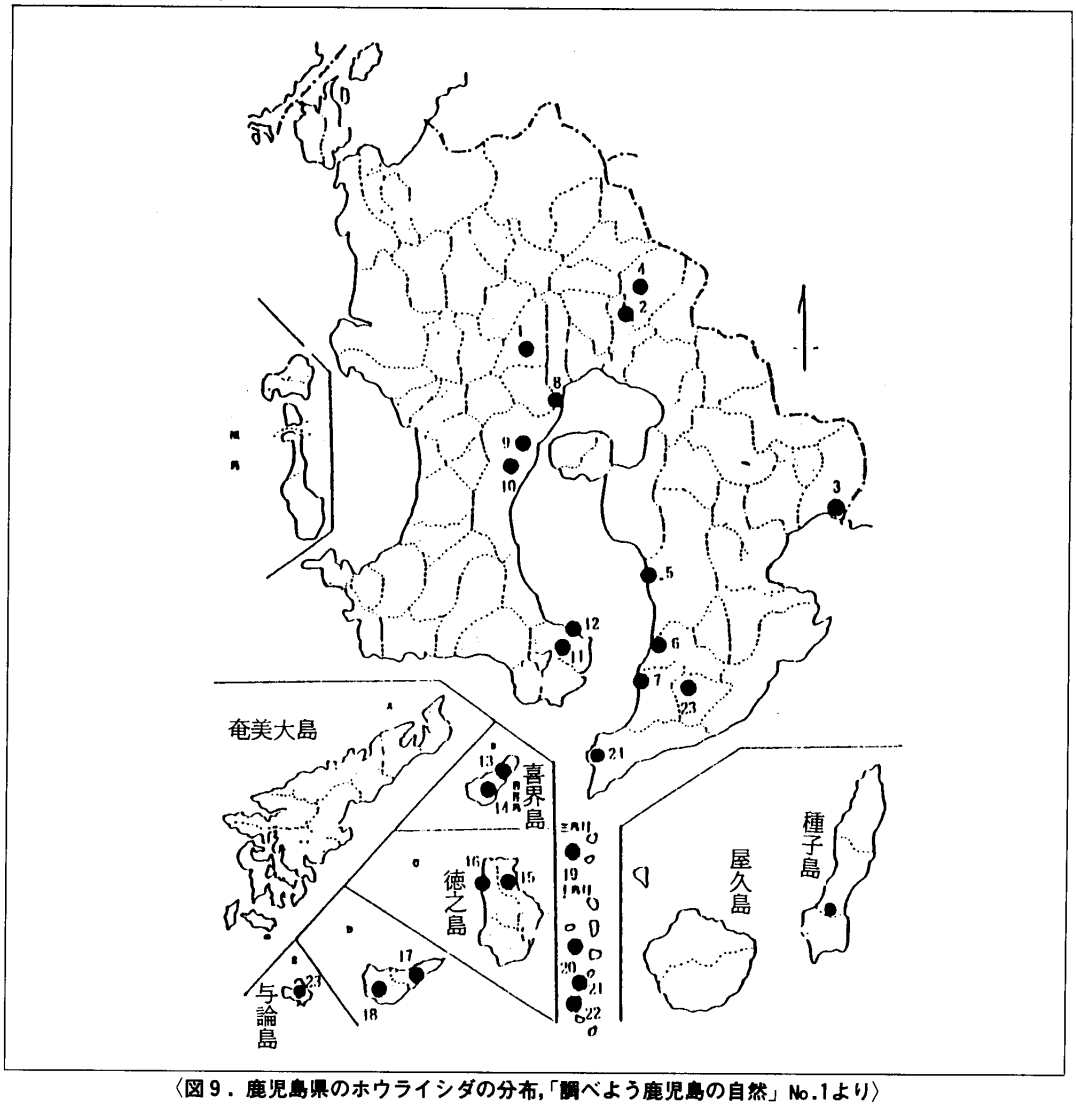
日本におけるホウライシダの分布については，倉田悟，中池敏之の日本のシダ植物図鑑Ⅰ (1979) に詳しくまとめられている。〈図7〉

これによると，三宅島，八丈島を含む東京都と神奈川，静岡，和歌山，兵庫，広島，高知，愛媛の各県と九州の各県に分布している。その中でも，鹿児島県，沖縄県の記録が多く，南へ行くほど広く分布しており，南の方から侵入してた植物と考えられる。ほとんどの地域が，海岸線に沿っており，内陸部への侵入は，あまり見られない。



〈図７．日本のホウライシダの分布（中部以北は略）　倉田悟，中池敏之　日本のシダ植物図鑑Ｉより

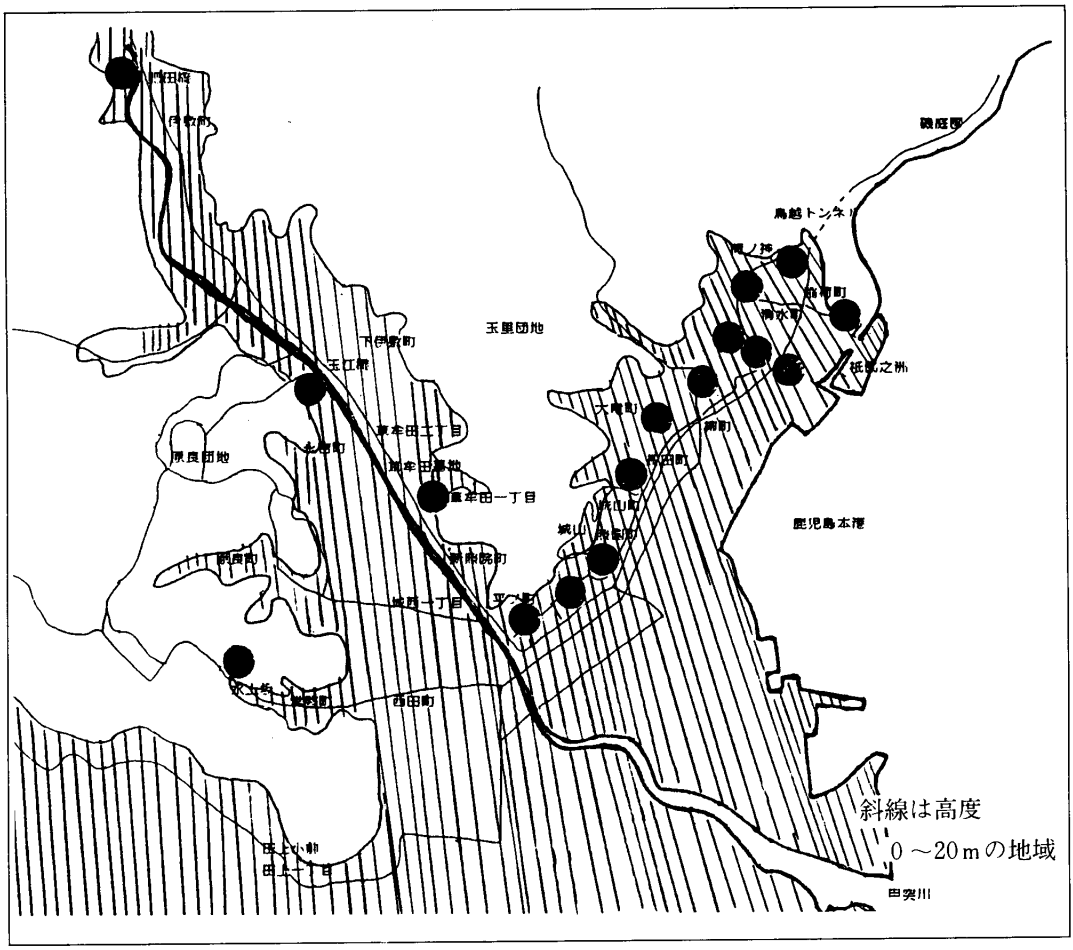
鹿児島県内の分布については，文献や標本による記録，調査による記録をもとに，「調べよう鹿児島の自然」調査報告書No．１（1988．３）にもまとめたが，県本土では，鹿児島湾に沿って分布しており，薩摩半島西部では見られない。内陸部へは，新川に沿って安楽温泉付近まで侵入している。離島では，多くの島で記録があるが，屋久島，奄美大島の記録がない等の特徴がある。県内の分布については，県民の協力を得て，今後，多くの資料が集まれば，さらに，詳しい状況が判明してくるものと思われる。



〈図9．鹿児島県のホウライシダの分布,「調べよう鹿児島の自然」No.1より〉

鹿児島市内の分布についてまとめてみると（図10）のようになる。国道10号線に沿って，平之町，城山町，照国町，長田町，柳町，大竜町，稲荷町，清水町の各地の人家の石垣，歩道の側溝によく見られる。甲突川に沿っての地域は，調査回数が少ないため，十分な結論は得られないが，河頭付近まで侵入しているものと考えられる。いずれの場所も海抜0～20mの旧市街地であり，高台にある団地等では見られない。最も多い生育地は，人家等の石垣のすき間で水平な地面に生えることは少ない。生育地の条件としては，石垣や崖の湿気が重要で，日当たりはあまり重要ではないようである。本種が森林内や林縁の崖等に生えていないのは競争種の存在も重要であると思われる。人家の石垣等は昔から除草作業がよく行われるところであるが，本種はすき間に根茎を張って地上部のみが除かれても枯死することはない。競争種の多くが，このような人為的操作によって除かれることが，本種を〝石垣のシダ〟として温存してきた可能性がある。本県特有の溶結凝灰岩の石垣が，適当な湿気を保っていることも本種にとって有利であろう。鹿児島市以外の地域でチェックしてみ

たい事項である。なお新しい団地や埋立て地の侵入については，このような石垣的生育環境の有無が重要であろう。本種の胞子の飛散状況と共に今後の問題点のひとつと思われる。



〈図10．鹿児島市のホウライシダの分布〉

参 考 文 献

1．初島住彦	改訂鹿児島県植物目録	1986	鹿児島植物同好会
2．倉田悟，中池敏之	日本のシダ植物図鑑Ⅰ	1979	東京大学出版会
3．田川基二	原色日本羊歯植物図鑑	1985	保育社
4．大井次三郎	日本植物誌　シダ編	1957	至文堂
5．牧野富太郎	新日本植物図鑑（16版）	1967	北隆館
6．伊藤　洋	しだ―その特徴と見分け方―	1968	北隆館
7．内藤　喬，梶原重盛	鹿児島県自生植物目録	1934	鹿児島高等農林学校
8．鹿児島市中学校理科部会	鹿児島市城山公園植物調査報告	1974	鹿児島市役所
9．脇　忠雄	調べよう鹿児島の自然　No.1	1988	鹿児島県立博物館